

広島は土砂災害の危険箇所が全国一

「山手・高台だから水災は大丈夫」の認識を変える必要が

広島土砂災害 特別取材企画

昨年8月19日夜から20日朝にかけて広島県で局地的な豪雨に見舞われ、特に広島市安佐北区、安佐南区など山すその住宅が土砂災害の被害を受け、多くの住民が被害に遭った。そんな状況の中、

広島県代協からは会長・吉山忠秀氏、副会長・五十川孝氏、副会長・島津信行氏にその当時の模様を体験して感じていただくという形で語っていただいた。

一人暮らしの老人が被災 普段からお客様の状況を把握

広島県代協

—— 豪雨があった8月19日の夜はどんな状況でしたか。

吉山 私の自宅が安佐南区でまさに豪雨のど真ん中にある状況でした。夜12時ごろに寝たのですが、午前2時(8月20日)ごろから雨と雷の音が目覚め、スマホで雨レーダーを見たところ、五日市(広島市佐伯区)から可部(広島市安佐北区)のあたりが真っ赤になっていました。午前4時ごろ外へ出ると、家の前の道路が川のようになっており、今までに経験したことがないような状況になっていて朝になると大変な災害になるのではと思いました。

五十川 私はその日の夜、広島市の中心街にいて帰るときにはハンカチをひুক

り返したような雨で辛うじて家に戻ることができました。まさか大災害になるとは思いませんでした。

—— お客様の被害はどこか。



(左から) 五十川副会長、吉山会長、島津副会長

お客様の被害は、真が山の斜面で土砂が流れ込んでいたように全壊認定(広島市)を受けました。そのお客様は高齢の女性で一人暮らし、一時的に介護施設にも入所されておりました。当初は連絡がとれず、20日の朝すぐに連絡をいただきよう手紙を送りましたら、電話がありました。電話があったのは、

お客様の被害は、真が山の斜面で土砂が流れ込んでいたように全壊認定(広島市)を受けました。そのお客様は高齢の女性で一人暮らし、一時的に介護施設にも入所されておりました。当初は連絡がとれず、20日の朝すぐに連絡をいただきよう手紙を送りましたら、電話がありました。電話があったのは、

日は東京の恩子さんのところに行っておられたようでした。最終的には2日合わせ梅林小学校3名、佐東公民館3名でした。

—— 相談内容は。

五十川 車が土砂に埋もれて被害に遭ったが、保険で対応できるのか。自動車を修理に持っていって何十万もかかるというけれど、どうすればいい。車両だけ自然災害が多発しているから、まさか起こらないだろうというところはない。お客様に情報提供をしていく必要があります。

吉山 被災後2週間以上、経過していましたが、東日本大震災もそうでしたが、自然災害が多発する中で、保険会社も代理店も迅速に対応するようにお願いして、その効果が出てきているように思います。

—— 今回の災害への対応は。

吉山 防犯だけでなく、防犯なども損保協会と協力してやっていきたい。9月6日に開催したチャリティのゴルフコンペに54名が参加し、土砂災害に対し10万円を中国新聞社会事業団に寄付しました。その後もCSR委員会、11月末まで義捐金を募集し、日本赤十字に寄付しました。

—— ありがとうございます。

東日本大震災の体験生かし迅速な対応

お客様にとってよりよい商品を提供していくことが一番です。

また、今回のような災害があったときに現場で実際に対応するのはわれわれ代理店です。普段からお客様の状況や情報などを把握しておくことで迅速な対応ができるのではないかと考えます。

島津 報道でもあったのですが、広島県には約3万2000の土砂災害危険箇所があり、全国で一番たというところを知りました。ハザードマップなどを活用しながらお客様に情報提供していくのもわれわれの使命ではないかと考えます。

吉山 今後、ハザードマップの活用を訴えていく必要があります。

—— 今回の災害を踏まえての広島県代協としての動きは。

島津 これからの課題は、もしもですが、災害など緊急時に代協の組織としてどう動くか。例えば同じ地域の会員同士が協力し合ってお客様に対応するといったことなども考えられます。

吉山 防災だけでなく、防犯なども損保協会と協力してやっていきたい。9月6日に開催したチャリティのゴルフコンペに54名が参加し、土砂災害に対し10万円を中国新聞社会事業団に寄付しました。その後もCSR委員会、11月末まで義捐金を募集し、日本赤十字に寄付しました。

—— ありがとうございます。